（４）②様式第４号－２（報告書）

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI ／12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。
※必ず A３片面１枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは５MB 以下としてください。

NITS・教職大学院等コラボ研修プログラム支援事業報告書	実施機関名・連携機関名 実施機関：山口大学教育学研究科（教職大学院）、NITS 山口大学センター 連携機関：山口県教育委員会、下松市教育委員会
	事 業 名 ：NITS・山口大学教職大学院コラボ研修「NITS カフェ in くだまつ」
	研修等名：NITS・教職大学院コラボ研修 「NITS カフェ in くだまつ」 タ イ ト ル：教職員の学びと育ちを支える！ 子ども理解と関わりの力をつける！ 「NITS カフェ in くだまつ」
	開催日時：令和４年 11 月５日 10:00～17:00 開催場所：スターピアくだまつ（下松市文化会館） ３階「会議室」 参加人数：41 人 同 属性：講師 1、現職教員 19（幼 1、小 7、中 6、高 3、特支 2）、教委 7（教育長 1、学教課長 1、指導主事 4、主査 1）、地域教育関係者 6、大学教職員 8

内容：

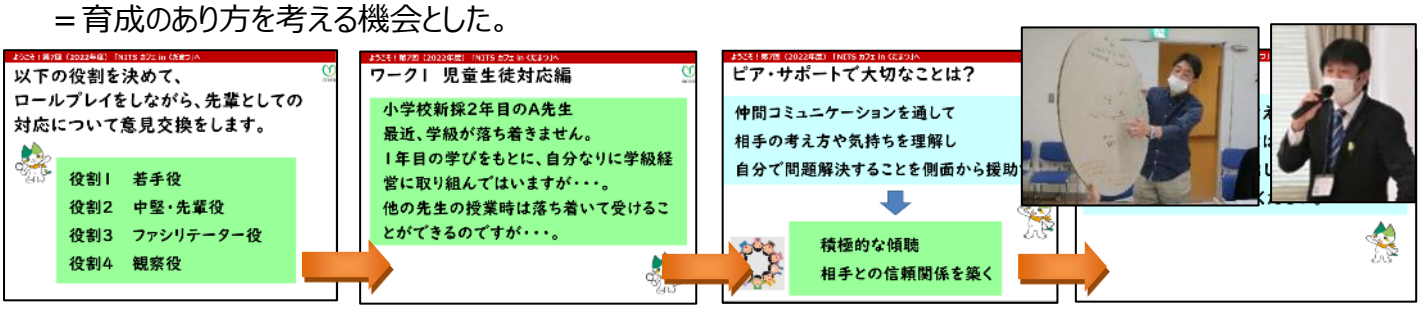
(1) 開会行事

主催者（教職大学院）を代表し、佐々木司専攻長が、NITS と本学教職大学院とのつながり、NITS カフェへの取り組みの歩みと成果、今回の意義と下松市教委への謝意を盛り込んだ挨拶を行った。その後、引き受け地、下松市教育委員会の玉川良雄教育長から、教職員の資質向上への願い、「NITS カフェ」への期待に加えて、下松市の教育トピックスの紹介があり、地域の教育資源、資産の教材化、学校・地域の連携協働に向けた実践拡大の意義を共有した。その後、NITS の紹介、「山口県教員育成指標」上の位置づけ、日程説明や諸連絡を行った。

(2)「カフェ（班別グループワーク：カフェ形式の熟議）」と「講演」

「教育は人なり＝子どもたちにとって最大の教育環境は教職員＝教育の成否は教職員の資質能力とその向上が鍵を握る」を共有し、「山口県教員育成指標」の重要性と不断の資質能力向上を参加者全員で確認した後、６グループに分かれて「カフェ」を行った。グループは、校種を越え、成長しあう、学びあう仲間集団としてワークをさせたいと考えたこと、８月の「NITS カフェ in UBE」でも「他校種教員の考えや発想が参考になった」という声が多かったことから、各校種の教職員が入り交じる形のランダム編成とした。

今回のテーマは、「教職員の学びと育ちを支える！～私のリアル教職生活！若手・中堅を励ますピア・サポート交流会～」とし、若手・中堅教員を励ます、相互に励ます・励まされるピア・サポート交流会の形で、各自の教職生活の開示、ロールプレイ、経験交流やシェアリングを行い、教職員の学びや成長の実際とサポート＝育成のあり方を考える機会とした。



ロールプレイ課題を３校種（小・中・高）事案で用意したことから、各校種の教職員を中心に、白熱の演技と臨場感溢れるやり取りが展開され大いに盛り上がった。共感的・支持的受容、傾聴、仲間意識と配慮、報・連・相と共有、自己選択と解決意欲、継続して支えあう関係性等のキーワードが溢れだし、「教職員（若手や中堅を中心に）が伸びる学校づくり」に向けて勢いのつく「カフェ（ワーク）」となった。

その後、山口県教育庁教職員課の吉川和夫主査が、教職員が伸びる学校づくりと職場環境、教職員の働き方改革について、「ワーク・エンゲージメント」の視点から「カフェ」を総括し、講評を行った。

昼食を挟んだ後半は、学校や地域が抱える教育課題の解決をとおして教職員の成長を図ることとし、開催地の喫緊の教育課題でもある「不登校支援とコーチング」に視点をあてた講義演習を行った。講師を NITS 中央研修等での指導実績豊富なナラティブコミュニケーション教育研究所の所長、佐藤敬子先生に、演題を「不登校解決のためのリソース開拓とコーチングスキ

ル」でお願いした。

はじめに、これからの時代に求められる能力、子どもの変化と社会的要因、見えにくくなった人間関係や人間の自己実現とコーチングの関係等を講義にて学び、「聞くこと、認めること」の意義をふまえたスキルトレーニングを行った。各自の経験や学校の実践をふまえた相談・コーチング体験の場となり、学びが大いに深まった。

後半は不登校の現状をふまえたワークを行い、不登校の原因特定は難しいがきっかけと要因はある、「引き上げる・押し上げるタイミング」が重要等の内容に、納得の表情が多く見られた。また、佐藤先生提唱による「GRROW モデル」が紹介され、不登校事案をめぐるスキルトレーニングを行った。大変学びの多い講義演習となり、今後の教育実践に貴重な研修となった。

(3) 閉会行事

最後に、NITS 山口大学センターの和泉研二センター長が謝辞および閉会挨拶を行い、今回の「NITS カフェ in くだまつ」を終了した。

成果：

参加者の学び（成果）は「内容」で概括したが、ここでは参加者の「振り返りシート」から一部を紹介する。

(1)「カフェ」での学び

・ ピア・サポート（ロールプレイ）では、役割を担当することで、相談場面を複数の視点で考えることができました。①相談者の困り感を共感的に受容する ②一緒に働く教職員に対する批判とならぬよう配慮する ③相談者が自身で解決策を選択できるような関係づくりが重要と感じることができました。ありがとうございました。（中学校）

・ 「NITS カフェ（ちゃぶ台ワーク）」では、学校内のリアルな事案について具体的に話すことができ、大変参考になりました。私も若い先生が行き詰まり、涙している場面を何度か見たことがあります。学校外で話せる場を作ると、元気を取り戻されたこともあり、やはり人間は、コミュニティの中に「安心して話せる仲間、場が必要」だと感じました。それは自分の特性から生きづらさを感じている大人にも言えることだと思います。自分を認めてもらえる場所が沢山あり、それが繋がりあっていたら本当に素敵だなと思います。子どもの世界は、大人の世界の縮図だと感じています。いろんな価値観を認めあう大人の世界が、最終的には子どもの世界にも伝染していくのかなと想像しました。（下松市教育支援センター）

(2)「講演」での学び

・ 明るく活力ある先生で、こんな先生や先生集団であれば子どもも保護者も先生方も嬉しいだろう。「明るい」という感覚を育てるには、「自己肯定感」や「コミュニケーションスキル」等の様々な要素を磨いていく必要があるが、一番重要なのは「愛情」と思える。しっかりと愛情を伝えていかなければと改めて感じた。カウンセリングやコーチングで重要なのは「答えは相手の中にある」という認識であり、褒めるより「認める」という技術であろう。「あなたが変わった。だから、私たちは嬉しい。」と考えたいものである。「日頃から手持ちのパンを貯めておきましょう。」というメッセージがあった。あの「パン」を削ると午前中の「希望のパン粉」が生まれるのではないか。つまり、「希望のパン粉」のような先生は、感謝や期待といった「あなたの存在を認める言葉」から育っていくのかもしれないと思った。（幼稚園）

・ 佐藤先生が言われたことで印象に残っていることは、「学校はなくてもいいと思ったら負け」ということです。不登校の子どもたちの支援として、佐藤先生が自信をもって「100%学校に復帰できる」と言われた時、これまで「個に応じた支援」ということで学校に来なくてもいいという選択肢に自分自身が頼り過ぎていたのではないかと反省しました。勿論、その選択肢は否定できないですし、どこでも教育が受けられるように公的支援を充実させるべきだと思います。しかし、人は社会の中で揉まれて人となります。やはり子どもにとって「学校」という存在はとても重要だと改めて気付かされました。そのためには、「引き上げるタイミング」と「押し上げるタイミング」を見誤らないようにしなければいけません。いかに多くの人で子どもに関わり、子どものために知恵がしぼれるかが大切であり、学校を中心として関係機関や地域などとの途切れることのない連携も重要と理解できました。（教委）

アイディアや工夫したこと：

(1) 「カフェ」では、本学が 16 年の経験を有する「ちゃぶ台方式＝カフェ形式」のノウハウやワークツールを活かすよう努めた。参加者の階層、所属、経験年数等による「上下」「一方的」関係を防ぎ、立場、経験や校種を乗り越えて協働的雰囲気の中で協議や交流が進むよう配意した。

また、教員の成長各期の遭遇しやすい困難事例のロールプレイを導入し、参加者や学校組織としての想いや人材育成経験の開示や共有を促し、今後の方向や育成、支援の実際を考えやすいように配意した。

(2) 「講演」は、現在の学校教育が有する課題「不登校」を切り口に、その現状や課題を分析し、教員集団として如何に対して行くか、コーチングスキルの獲得も意図して構想した。講師選定においては、NITS 中央研修等での指導実績や人物に定評があり、広域で活躍中の講師を招聘することにより、参加者の研修意欲向上に繋がるよう配意した。

(3) 教職大学院としての地域貢献、県内の教員人材の育成、教員研修の活性化に資する「NITS カフェ」とするため、県内公開講座として行った。下松市を中心とした県東部の教員研修、ミドル・ヤングリーダー養成に貢献できた。市教委からも感謝の言葉が伝えられ、今後の事業拡散に向けた貴重な経験となった。